

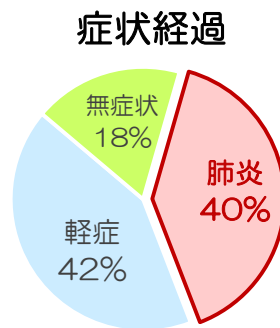
自宅療養原則の誤り

国は8月、それまでの指針を転換し、感染急増地域において、入院対象を重症患者や重症リスクのある者等に重点化し、入院患者以外の者を「原則、自宅療養」とすることを可能とする方針を示したが、自宅療養によって、どういった事態が生じているのか。

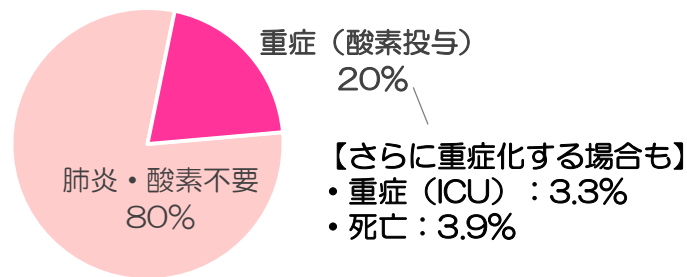
当初無症状者のその後の症状経過

和歌山県のデータ R3.3～R3.5

当初、無症状であっても、その後、4割が肺炎に。死亡に至ったケースも



肺炎発症者内訳



50歳代以下の自宅療養中の死亡者数

東京都のデータ 第5波 R3.7.1～R3.9.20

自宅療養では、若年・壮年層であっても死亡することも

	東京都	和歌山県
自宅療養中の死亡者数	25	0
30歳代	5	0
40歳代	8	0
50歳代	12	0

自宅療養での医療体制強化

大阪府の取組

- 中和抗体薬の投与を病院外来で実施
※往診や診療所においても実施へ
- 外来医療機関等への搬送体制整備
- 医師会等における往診体制の充実 等

新型コロナは、発症当初は無症状や軽症でも、その後、急激に悪化することもあるため、自宅療養を原則とする考え方は誤り。また、感染状況から、自宅療養となった場合でも、在宅等において、必要な医療ケアを受けられるよう、国として指導すべき。